天理市萱生町　ヒエ塚古墳第６次発掘調査　調査成果資料

天理市教育委員会文化財課

調査期間　　令和３年１月 13 日～令和３年２月末 (予定)
調査担当　　天理市教育委員会文化財課　主任主査　北口聡人

１．はじめに

天理市教育委員会では、古代国家成立にかかわる国内最古の古墳群ともいわれる大和･柳本古墳群の保護に向け、各古墳の基礎的データを集めるための発掘調査を継続的におこなっています。今年度はヒエ塚古墳の前方部 (四角形の部分) 南西隅および南側で発掘調査を、後円部墳頂で電気や地中レーダによる物理探査をおこないました。

２．ヒエ塚古墳の概要

ヒエ塚古墳は長さ約 127m の前方後円墳で、ノムギ古墳と並んで大和古墳群の北端に位置します。古墳は龍王山から北西方向にのびる尾根の上に前方部を西に向けて築かれ、同じ尾根上には南東側にクラ塚古墳、西側にノムギ古墳が築かれました。

３．これまでの調査

・昭和 52(1977) 年度　奈良県立橿原考古学研究所 (橿考研) による測量調査。
　長さ約 130m､後円部 (円形部分) の直径約 60m と推定される。また､古墳の周囲に周濠 (ほり) のような地形があることが指摘された。

・平成 14(2002) 年度　古墳北側の道路建設に伴う発掘調査 (第１次･橿考研)
　古墳築造に際し埋められたとみられる溝から３世紀ごろの「庄内式土器」が多く見つかり、古墳が３世紀後半～４世紀初頭に築かれた可能性が浮上。

･平成 14(2002) 年度　県道バイパス建設に伴う発掘調査 (ノムギ古墳第２次･橿考研) の補足調査として、ヒエ塚古墳前方部西側２ヶ所を発掘調査。古墳や周濠の痕跡は見つからず。

･平成 25(2013) 年度　後円部の南側で範囲確認調査 (第２次･天理市教育委員会)
　従来の推定よりはるかに幅の狭い周濠と、その南側に谷状の地形を確認。葺石 (墳丘が崩れないよう古墳の表面に葺く石) の基底石 (葺石の基礎として最下部に積む大ぶりの石) が出土したほか、その前面に葺石をもたない基壇状の施設を確認。

･平成 28(2016) 年度　後円部の北側で範囲確認調査 (第３次･天理市教育委員会)
　周濠や葺石、基底石を確認。葺石の厚さ約２m。

･平成 29(2017) 年度　古墳および周辺の地形を航空レーザ測量 (天理市教育委員会)
　南東から北西に向け地形が下がる事を確認。発掘調査で見つかった基底石の位置から、**後円部の推定直径を約 69m に修正。**

･平成 30(2018) 年度　前方部北側で範囲確認調査 (第４次･天理市教育委員会)
　柳本飛行場関連施設などが出土するが、古墳に関わる遺構はみつからず。

･令和元 (2019) 年度　前方部西側で範囲確認調査 (第５次･天理市教育委員会)
　現在の墳丘裾となる石垣よりも内側 (東側) で、前方部前端の基底石や葺石を確認。
　古墳の推定全長を約 127m に修正。

４．今回の調査成果 (調査進行中のため、今後内容を変更することがあります)

（１）地中レーダ探査 (天理大学との共同調査) について

天理大学に依頼し、前方部南端で地中レーダ探査をおこないました。調査データは現在解析中ですが、石材の反応がほとんど確認できず、埋葬施設は石槨でない可能性があります。

（２）発掘調査について (裏面地図参照)

北調査区：前方部南西隅角の検出を目的とする調査区です。当初予想した位置に隅角が当たらず、拡張を繰り返したため複雑な形状となっていますが、総面積は約 10 ㎡です。調査区内は現地表面下 1.3 ～ 1.5m まで削平を受けていますが、その下に隅角の葺石基底部２～３段分が残っていました。葺石は古墳の側面と前面を曲線で結ぶように並べられ、石材も基底部としては小ぶりです。隅角部は墳丘主軸から南へ約 29m 離れており、現状の墳丘南端との位置関係から、従来の推定通り前方部がバチ形に開く可能性が高まりました。

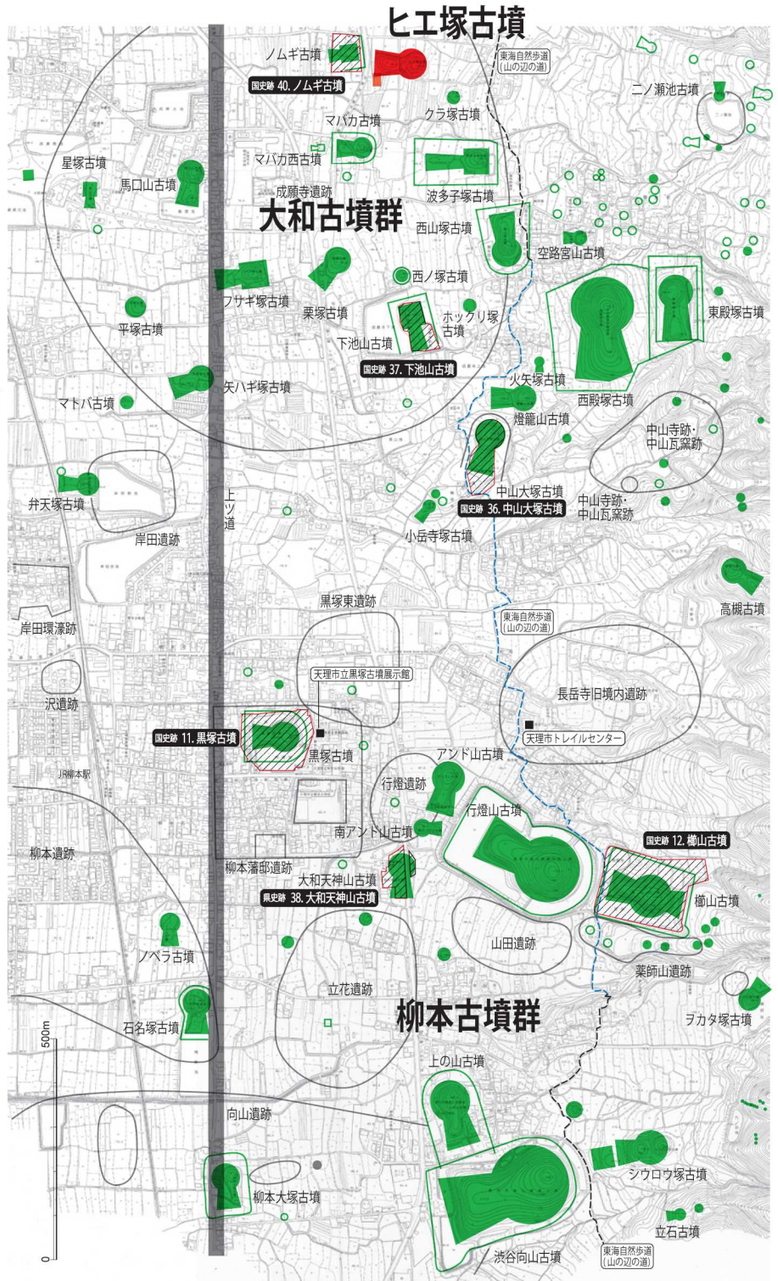
一方、今回確認した隅角と第５次調査で確認した前端から推定される前方部前端の向きは古墳の主軸に斜交することになり、ヒエ塚古墳の形が左右非対称となる可能性が浮上しました。

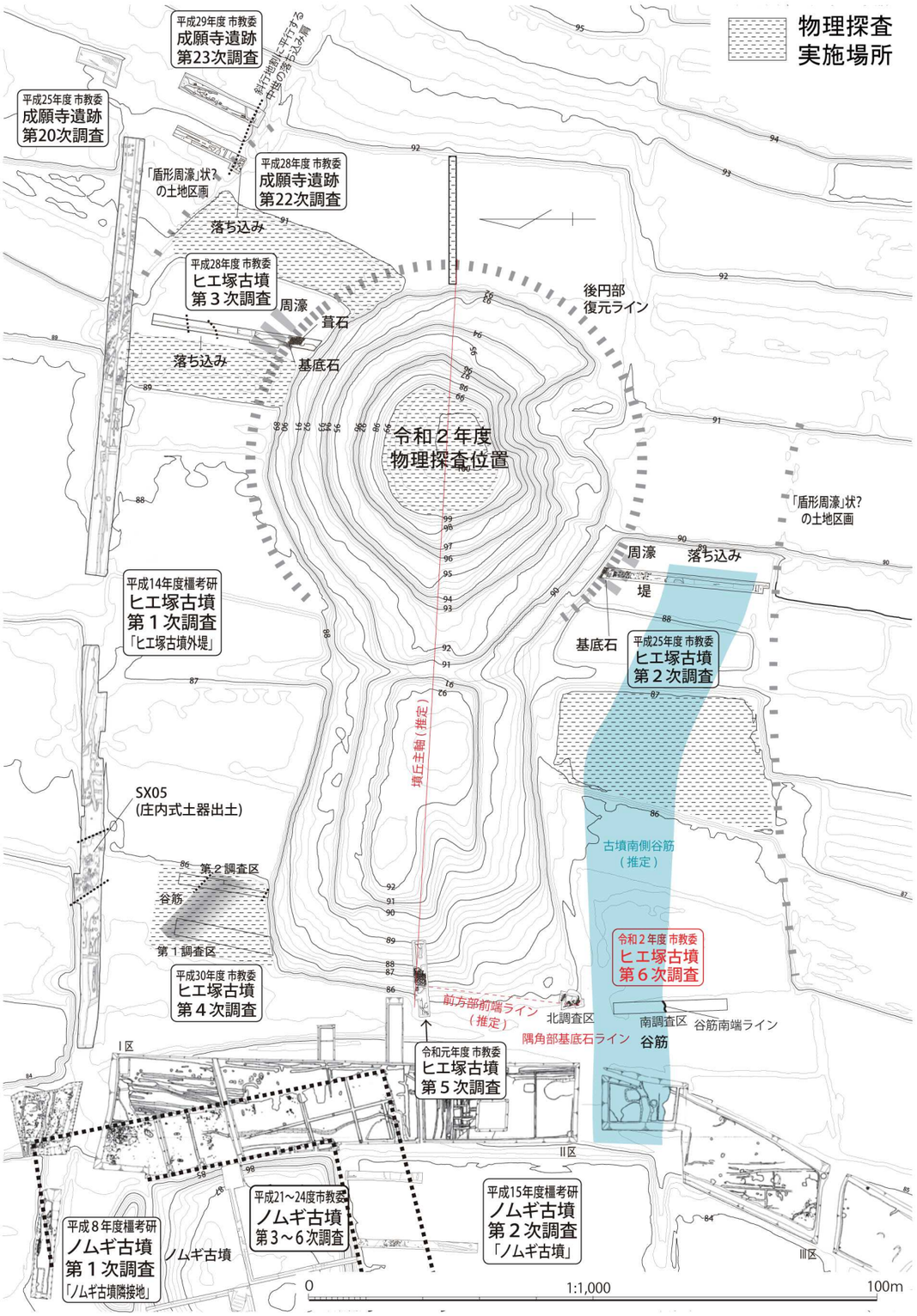
今回見つかった墳丘裾は第５次調査地より標高が 1m 以上低く、古墳が造られた時点の地形を反映しているとみられます。墳形が左右非対称になる要因として、こうした地形に合わせて墳丘を築造したことが考えられます。

南調査区：東西 1.5m× 南北 20m の調査区です。古墳南側に存在が推定されてきた谷地形が見つかっています。地形は北向きに下がり、調査区北端での谷底は基底石の高さより更に 50cm 程度深くなるようです。谷の北岸は里道の下で確認できませんが、墳裾から谷の北岸の間に周濠の入る余地は少なく、調査地付近では周濠がなかったか、谷を周濠のかわりに利用していた可能性があります。

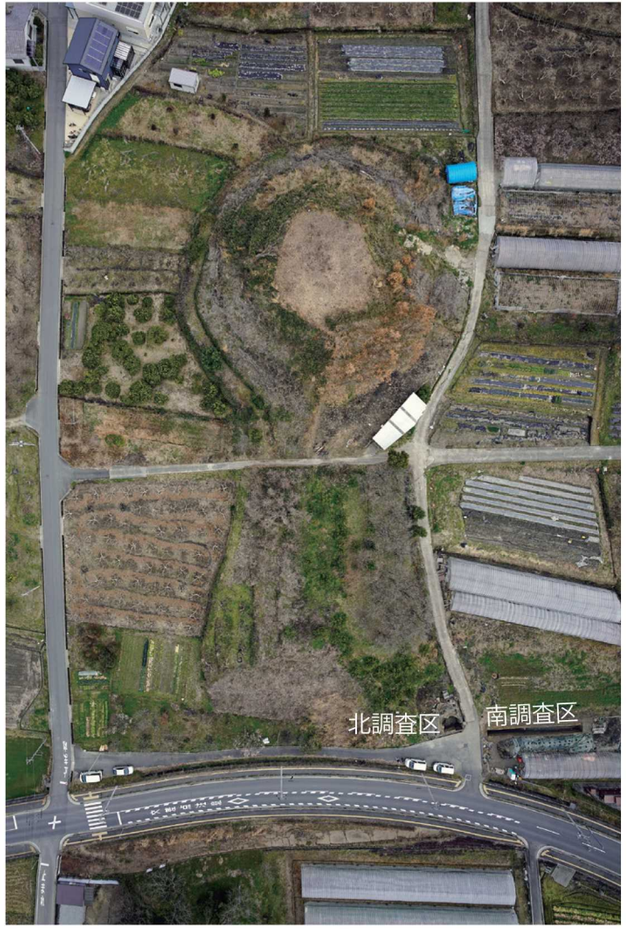
５．おわりに

今回の調査では、ヒエ塚古墳の前方部前端がバチ形に開く可能性が高まったほか、前方部が左右非対称となる可能性が新たに生じるなど、古墳の形を考える上で貴重な成果が得られました。また、基底部を覆うように多量の樹木 (一部に加工あり) が堆積しており、その性格も注目されます。





ヒエ塚古墳の形状および周辺地形復元図



←古墳全景

南調査区全景
（北から）→

北調査区全景（西から）